たねと食とひと@フォーラム

「たね」を通してみた食と農の持続可能性についての啓発活動

ひろげる助成 **3年目**
知識の提供・普及啓発

活動地域 東京都

調査及び取材活動	73 団体
講座等啓発活動参加者数	1,063 人
今年度計画の達成度	90 %
目標達成度	90 %

大豆の収穫感謝祭オダイズサイ2021

苦労した点と工夫した点

■苦労した点
新型コロナ感染拡大により、現場へ赴く取材活動は難しく計画の変更を余儀なくされた。また、学習会や交流会など直接会って交流する機会が極端に減った。

■工夫した点
オンラインの活用により、講座企画をテキスト付き、ライブ視聴、録画配信にしたことで参加しやすくなり、幅広い層の参加があった。広報紙のカラー化等情報提供を強化した。

課　題

「たね」を巡る考え方は立場の違いや情報の所在の偏り等により、主体的に考え責任ある取組みに関わることができたであろう多くの市民の関心を集めることができずにいる。

目　標

講師等、啓発活動の担い手の育成拡大。環境、農、食をテーマとする市民団体のネットワークや国会議員連盟の発足。種子生産条例制定の自治体の増加。ウェブ等閲覧数の増加。

活動内容と成果

調査活動により、啓発活動の講師が増え5人となった。ミニ冊子「ゲノム編集食品が食卓へ 表示とトレーサビリティの必要性」作成やカフェ、学習会講師、他紙の執筆等の啓発活動やテーマ別チーム（ゲノム編集食品・種・講座企画・広報）を作り取り組んだ。連続講座「地域をつくるコモン農」、「大豆から世界が見える」、「タネとヒト」出版記念トークのオンライン開催により幅広い層の参加があり、活動への賛同者が増えた。広報紙をリニューアルし、見やすく伝わりやすい広報を心掛けた。大豆の収穫感謝祭オダイズサイ2021を開催した。

ミニ冊子「ゲノム編集食品が食卓へ」

オンライン連続講座・地域をつくるコモン農

全助成期間の活動を振り返って

より多くの市民が主体的に責任ある意思決定を行うよう、シンポジウム、調査活動、啓発活動の三つの活動に取り組んだ。問題提起の手法として立場を異にする当事者も互いに認める客観的な論点を明らかにし、専門的知識をもたない市民の責任ある判断を可能にすることをめざした。この手法を評価してくださる専門的研究者等との信頼関係を構築した。今後も正確な情報発信と見解を示し、啓発活動の担い手として信頼される団体をめざす。

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1342
電話：03-6869-7206
E-mail：info@nongmseed.jp
HP：https://nongmseed.jp/

今後の展望
オンラインを活用した活動により参加の広がりをつくるとともに繋げていくことをめざす。運営メンバーの多様化により、テーマ別チームで専門性のあるメンバーを配置し、さらに外部専門家のサポート体制を整備し安定した活動を行う。役割分担を一層明確にしていくことで、目標管理を強化する。「たねと食とひと」をテーマに連続講座やシンポジウムの開催、実践者の紹介等の啓発活動、他団体との交流、協働による活動をめざす。